

医療機関の新規開設（開設者変更含む）や増床にかかる説明資料

N e x W e l 恵那地域笑顔共創クリニック

院長 松本 尚浩

1 概要（令和3年1月時点）

| | |
|------|---------------------------|
| 病院名 | N e x W e l 恵那地域笑顔共創クリニック |
| 所在地 | 岐阜県恵那市武並町竹折1087番地1 |
| 開設者名 | 医療法人笑顔会 |
| 管理者名 | 松本 尚浩 |
| 時 期 | 令和3年5月 |

2 機能別病床数・病床利用率（令和3年1月時点）

| | 高度急性期 | 急性期 | 回復期 | 慢性期 | 休床等 | 合計 | 病床利用率 |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|----|-------|
| 現在 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 変更後 | 0 | 0 | 19 | 0 | 0 | 19 | 80%予定 |

3 新たに整備される病床の整備計画と将来の病床数の必要量との関係性

現在は、恵那市武並町周辺の在宅患者 37 名を訪問診療しており、患者様の過半数及び地域の方々から在宅での診療が心配の際に、入院できる場所があればと声を頂戴し、この地域に病床が必要だと感じる。

また、東濃医療圏は回復期病床が不足傾向であり、今後、地域医療構想に基づいて急性期病床から回復期病床へ転換する事が議論されている。

東濃医療圏における2025年の回復期病床の不足数は247床と試算されている¹⁾。

一方、東濃地域医療機関アンケートにおいて2025年までに病床機能転換の予定があると返答した施設は15施設中3施設であり、病床転換を円滑に進めるための課題も残されている²⁾。

こうした状況下で、需要に応えるため、19室を病室、1室を予備室として活用予定。予備室に関しては、入院患者の家族と一緒に泊るときなど様々な活用を考えている。

対象となる入院患者は、一般の病床の回復期にあたる方となる。

4 新たに整備される病床が担う予定の病床の機能と、構想区域の必要病床数との関係性

「在宅自己完結型」ともいうべきモデルを構築。

具体的な対象となる入院患者は、在宅で診てもらっているが家では少し不安な状況になった場合に、有床診療所の回復期へ入院し、リハビリを受けて在宅へ帰るイメージ。(重篤化しそうな患者は病院へ送る。)

こういった機能をもった病床はなかなか無いので地域医療に貢献できると考える。

病院の負担を減らし、在宅で診ることができる方は在宅で診て、無理になったら回復期で診て、難しい場合は病院へという流れをつくる。(在宅診療所が病床機能を持つことの効果)

5 雇用計画や設備整備計画の妥当性

当院の診療所の2階には病室が20室あり、全てが空いているため、今回、工事はせず、設備としてベッドの導入をして清掃をする程度となる。

雇用については、事業計画のと通りの適正人数の採用を行う。

令和3年2月および3月に求人活動を行い、採用面接を実施する。

令和3年4月は職員研修期間を実施して、令和3年5月に有床診療所としてスタートする。

6 その他

参考資料

1)令和元年度 病床機能報告結果

【令和2年度第1回東濃圏域地域医療構想等調整会議】(資料3)

2)医療機関アンケート集計結果について(全体)【東濃圏域版】(調査項目2 今後の方向性等について)

【平成30年度第4回東濃圏域地域医療構想等調整会議】(資料2-1)